

船舶インシデント調査報告書

平成24年8月30日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 庄 司 邦 昭
 委員 根 本 美 奈

インシデント種類	運航不能（燃料不足）
発生日時	平成23年7月24日（日） 15時00分ごろ
発生場所	新潟県柏崎市柏崎港 柏崎港西防波堤灯台から真方位231° 1.1海里付近 （概位 北緯37° 22.3′ 東経138° 31.5′）
インシデント調査の経過	平成23年9月13日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（仙台事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	遊覧船 はまなす、16トン 243-17518新潟、有限会社柏崎観光汽船（以下「A社」という。） 11.95m (Lr) × 3.48m × 1.85m、FRP ディーゼル機関、235kW、昭和62年7月
乗組員等に関する情報	船長 男性 70歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和49年12月10日 免許証交付日 平成20年12月10日 （平成26年7月17日まで有効） A社代表取締役 男性 68歳
死傷者等	なし
損傷	なし
インシデントの経過	本船は、船長が1人で乗り組み、乗客5人を乗せ、平成23年7月24日14時45分ごろ柏崎港西ふ頭岸壁を出港し、同港内を観光遊覧で航行中、15時00分ごろ主機が停止して運航不能となった。 本船は、A社に救助を求め、錨泊して救援を待ち、15時15分ごろ来援した船舶Aに乗客を移乗させ、別の船舶Bにえい航され、15時40分ごろ柏崎港西ふ頭岸壁に着岸した。 本船は、着岸後、船長が燃料油タンクを点検したところ、残油量が少ないことが判明し、燃料を補給したのち、8月4日から運航を再開した。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南西、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏
その他の事項	本船は、7月～8月の間に乗客があれば、09時30分発から16時00分発までの便の運航を行うこととしており、最多で1日に5便の運航を行い、柏崎市福浦 ^{しょうじょう} 洞への観光遊覧の運航を行うと1航海で約50分掛かり、燃料消費量が約35ℓであった。 本船は、本インシデント前、1日2～3便の運航であった。

	<p>本船は、燃料油タンクの最大搭載容量が約2,000ℓであり、油面計が汚れていたため、目視で確認できる燃料油量は300～2,000ℓであった。</p> <p>船長は、7月21日に燃料油タンクの残油量が約300ℓ以下になったので、その旨をA社に報告した。</p> <p>A社は、燃料費の節約を図ろうとし、燃料保有量を燃料油タンクの底面付近まで減らしており、燃料油の補給を行わなかった。</p> <p>本船は、燃料油タンクの燃料油取出し管が燃料油タンクの内部に底面から約10cm上方へ立ち上がった状態で取り付けられており、燃料油に混入した水分、スラッジ、錆等の混入物の吸い込みを防止する構造になっていた。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>あり</p> <p>なし</p> <p>本船は、柏崎港内を観光遊覧で航行中、燃料油が燃料油タンクの底面付近の保有量で運航されていたことから、燃料油の油面が燃料油取出し管以下になり、燃料油の取出しができず、主機に燃料油が供給されなくなって停止し、運航不能になったものと考えられる。</p> <p>A社は、燃料油が約300ℓ以下になったとの報告を受けたが、燃料費の節約を図ろうとして燃料油の補給を行わなかったものと考えられる。</p> <p>A社は、燃料油量が燃料油タンクの底面付近まで減少すると燃料油取出し管の構造から、燃料油の取出しができず、主機に燃料油が供給されなくなることを知らなかった可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本インシデントは、本船が、柏崎港内を観光遊覧で航行中、燃料油が燃料油タンクの底面付近の保有量で運航されたため、燃料油の油面が燃料油取出し管以下になり、主機に燃料油が供給されなくなって停止したことにより発生したものと考えられる。</p>	
参考	<p>本インシデント後、A社は、燃料保有量を常時1,000ℓ以上とする対策を採った。</p> <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃料油タンクの燃料油取出し管の構造を把握し、燃料油の取出しができなくなる燃料油量を確認しておくこと。 ・燃料油量は、最低必要量ではなく、不測の事態に備えた余裕を持った量とすること。 ・残油量が確実に把握できるよう、油面計を整備しておくこと。 	